

新生児から3か月児くらいの肌(湿疹等)について

千葉市立海浜病院小児科 加藤 いづみ 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 新生児から3か月くらいの赤ちゃんの肌の特徴は？

生後2~3か月くらいまでは、赤ちゃん自身とお母さん由来の「性ホルモン」の影響で、一時的に皮脂分泌が盛んな時期。また、皮膚バリア機能が未熟であり、皮膚トラブルを起こしやすいです。

Q2 赤ちゃんのおでこから頭皮に黄色いカサカサができています、これはなに？

赤ちゃんの頭皮、おでこ、眉毛や鼻の周囲など、皮脂の多い部位に黄色の油脂性の厚いカサブタや発疹ができることがあります。これは「乳児脂漏性湿疹」と言い、皮脂の分泌が多いことが原因と考えられています。カサブタができたなら、オイル(ベビーオイルやオリーブオイル)を塗り、30分程おいて軟らかくしてシャンプーで洗い流します。カサブタが厚く固まってしまうと、皮膚の炎症や感染を起こし、ステロイド軟膏などの治療が必要な場合があります。予防として、1日1回は頭皮をシャンプーで洗いましょう。生後2~3か月を超えて、皮脂の分泌が低下してくるとできなくなってきます。

Q3 「顔に赤いブツブツができてきた」ケアはどうすれば良いの？

この時期の赤ちゃんのおでこや頬などの皮脂の多い部位にできるブツブツは、「新生児ざ

瘡」といって、いわゆる「ニキビ」が多いです。ケアとしては、通常のニキビと同じように、泡立てた石鹸で余分な皮脂を優しく洗い流し、保湿をします。こちらも、生後2~3か月を過ぎると自然に良くなっていきます。

Q4 様子を見ても良い湿疹と、受診し方が良い湿疹の見分け方

適切なケアをしても改善しない場合は、皮膚科か小児科を受診しましょう。また、「乳児脂漏性湿疹」も「新生児ざ瘡」も初期のアトピー性皮膚炎と見分けることが難しい場合があります。湿疹が持続する場合、かゆみが強い場合、顔以外の部位にも湿疹が見られる場合、乾燥が強い場合などは受診をしましょう。

Q5 秋口から冬にかけての皮膚のケアでの注意点は？

脂漏部位(頭皮、おでこ、眉毛部、鼻部など)以外の皮膚は、新生児期であっても乾燥しやすいです。特に秋口から冬は乾燥しやすい時期ですので、全身の保湿を行うことが大切です。

